

# おらDoの協Do!

～人と人が集まり、出会いとつながりが  
広がる中で生まれる「おもっせえ」おおつち～

協働による地域・まちづくりを実践し、  
人と人との出会いやつながりを生み出  
している「おもっせえ」人や活動を紹  
介します。みんなやっべし協働!

## 「ごめんください!」言えるかな? 〜まち歩き おおつち探検隊に地域が協力〜

「ごめんください! シールください!」子どもたちの元気な声が町のお店に響きます。5月20日(土)、おおつちこども園の園児と保護者による親子遠足「おおつち探検隊」が行われました。園児たちは、お父さんお母さんたちと一緒にこども園を出発し、町のお寺や神社、商店などを訪ねて、それぞれのお店にあるシールをもらいます。先生との約束は「ごめんください」と自分でお店の人に声をかけること。初めは恥ずかしがっていた子どもたちも、何軒も回るうちに大きな声で声をかけられるようになっていました。

今回は、子どもが町中を歩いたり、1人でお店の人と話して買い物したりすることも園の体験行事として企画されました。町の人たちは趣旨に賛同し「昔は当たり前だった『おつかい』をする環境がない」「町の店や仕事を知ってもらおう良い機会」と快く協力。園児たちを迎えた越田商店の越田征男さんは「言葉で意思を伝えるのはコミュニケーションの基本。子どもたちの貴重な経験になってほしい」と笑顔で話しました。

地域が一丸となって作り上げた「コミュニケーション体験」の場。子どもたちの「ごめんください!」の声は、意思を発する力として身につけ、身の周りの人や地域とのつながりを創り出す大きな力となっていきます。



お店などを回り、おおちゃん型の台紙にシールをはってもらう



こした ゆきお  
越田商店 越田 征男 さん

昔、大槌では誰かに何か話す時「もうす」と声をかけたものでした。これは「もの申す」という意味で、言葉で意思を発する事は、人として一番大事な事。子どもたちにはぜひその力を身につけてもらい、自分の人生、また災害など万が一の時に、はっきり伝えることができる人になってほしいと思います。最近は無言で商品を手に取り、会計も機械のできる店が増え、お店の人を呼んで「これをください」と言う機会も減っています。今回、うまく言えた子、中々言えなかった子それぞれでしたが、保護者たちが子どもの様子を見て、これからどうやってこういう経験をさせるか考えるきっかけになってくれれば良いと思います。

